

# 歴史的建築物の活用に向けたファンド等資金収集手法の検討

＜調査概要＞ ■調査実施地域：愛知県岡崎市 ■調査実施者：任意団体「藤川地区景観まちづくりファンド推進協議体」

- ・ 東海道宿場町に残る町家の改修に向けて、まちづくりファンドの手法でその資金を収集する可能性について、行政職員や地域活動家等で組織する団体が調査を実施。
- ・ ファンドとは何かについての地域住民との勉強会を経て意識醸成プロセスに係る知見を得つつ、アンケート調査から寄付意向の傾向や資金収集規模を把握。さらなる工夫が必要であること、寄付は呼び水の規模となる等、改修利活用事業の検討本格化に向けた前提条件が明らかになった。

## ＜調査内容＞

### ■寄付方式の検討

#### ～住民の意識醸成～

ファンドとは何かについてから始まる地域住民との勉強会を6回に渡って開催。

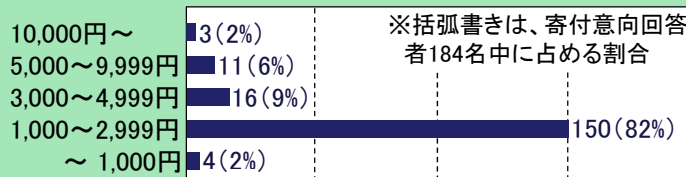
全く知識がない状態から始まり、回を重ねる毎に理解が深まる様子が見られた。

こうした意識醸成プロセスがファンド検討や立ち上げに不可欠であると考えられる。

#### ～寄付意向アンケート～

小学校区1,923世帯に配布。529世帯から回答を得た。

35%の住民から寄付意向が得られ、金額帯は年間1,000～2,999円の回答が圧倒的。回答者のみ集計で年間約30万円、非回答者が同様に寄付する楽観推計では約110万円となる。同様に地域企業アンケートも行い、住民・企業の合計で推計寄付額は年間約115～200万円。



Q.自分が寄付する場合、毎年いくらなら寄付できますか(数字は人)

希望する寄付金の使い道は、事前の勉強会で町家改修をイメージして議論したこともあり、「外観復元」が最多となったが、居住地域別に見ると、勉強会では議論されなかった町家での「宿泊体験」を希望する回答割合が宿場町のある旧市街から離れた地域で高くなる傾向が見られた。今後、小学校区外を対象にさらなる資金収集を目指す場合、改修した町家での宿泊体験利用イメージを打ち出すことで好反応を得られる可能性が示唆された。

双方の検討を並行実施し、比較考察

寄付方式での資金収集規模は限界があることが判明。

改修利活用事業の呼び水の規模と認識し、事業そのもので収益確保を目指すことが必要であること等を確認。

さらなる事業性改善に向けて、改修方法の工夫や、寄付によらない資金収集方法導入の必要性等も明らかになった。

### ■改修方法・費用の検討



藤川地区の中核的な歴史的建築物「米屋」

グレード等と費用の関係进行分析

H24建築着工統計木造平均(15.8万円/㎡)適用

